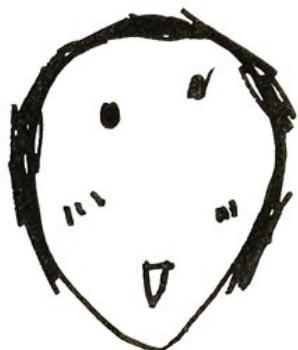
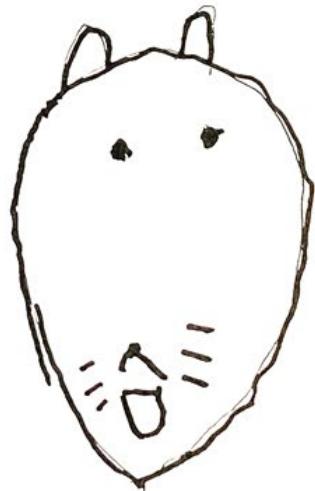
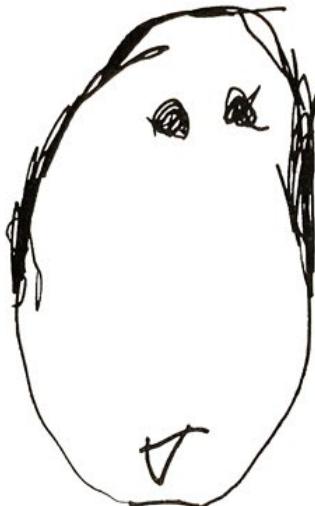


とよ・たち 美肌通信

2月号

vol. 163

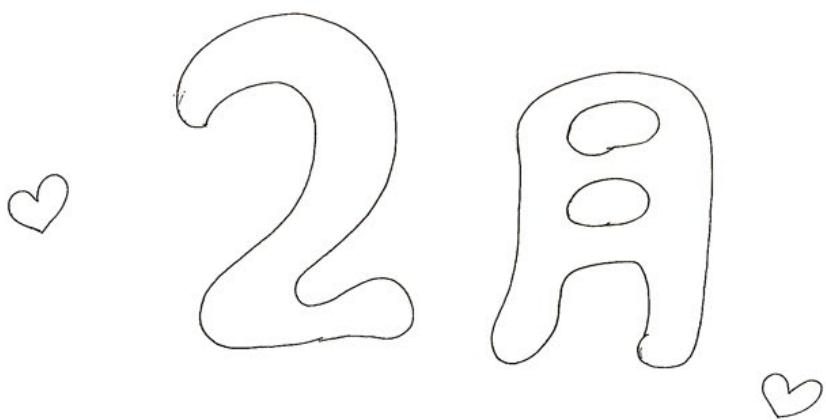


とよ・たち

美肌通信

2月号 vol.163





今月号のとよたち美肌通信の表紙には
2匹のネコと大好きなお父さん、お母さんの絵です。
見えていてホッとします、って温かい家族ですね。
歌をうたったり、絵本を読むこと、ぬり絵や工作をするのが
好きなお子さんが描いてくれました。三輪車に乗るのも
得意げで楽しそうです。今月はスペシャルバージョン! もと
より文様を一茶道に表紙を描いてくださいました。
かわいい娘様が「鬼のエタ～!」と豆まきをしているのでしょうか。
忙い時間の中で、ステキな表紙を描いてくださいました。
本当にありがとうございます。
院長はじめスタッフ一同、
心より感謝いたします。

「敬」には“ラやまう”以外に“つゝしむ”的意を持つ。またそれら以外に“真心を込めてつとめる”という意味を持つという。学識の高い人の語によると「敬」とは現実に甘んじなくより高きもの、より貴きものを求めていくそういう心が“敬”であると言っている。

中華夏殷周の時代、朱子という人物が編纂した「小学」という古典がある。その中の一つに「敬、急に勝てば吉なり 急、敬に勝てば滅ぶ」とある。²² 敬しみの心が急^{あいだ}りの心に勝てば吉^{きつ}だが、逆に急りの心^{きつ}が敬しみの心に勝てばその末路は滅^めびに至るということがある。洋や古今の東西を問わず個人や集団の榮枯盛衰は全てこれに通ずるのだ”と思う。

私は物事がうまくいったりするとすぐ樂をしようとする木岸な考えを起こしますが、自然界にはそういうことはないのだ”と言われています。自然界に生きる動植物は皆死に一所懸命に生きています。すぐ樂をしようとする心は、真心を込めてつとめ 現状に甘んじることなく高きもの貴きものを求めていく「敬」の心 そのものに反することだ”と思います。中華の別の古典に「ただ謙のみ福を受く」というのがあります。

謙虚でなければ"幸福を受けることは出来ず、幸福を受ける人は皆謙虚である"という意を示す言葉です。成功する人とは内に燃える様な情熱や闘争心を持ちつつも、実は極めて謙虚で控え目な人々のだと思います。

中華 明の時代、章楓山という碩学者がいた。ある時 科挙に合格した人が彼を訪ねてきて、自分は科挙に合格したが 次のステップにて何を勉強すれば"良いか"を尋ねた。章楓山はそれを受け「小学」を学ぶことだと答えたという。科挙に合格した者に「小学」を学べとは、人を馬鹿にするのも程があるとその人は思ったか、碩学者である章楓山の言葉であるからと、その人は改めて「小学」を学び直した。すると程なく身に迫るものがあり、その人物は「小学」に韋編三絶した後 再び章楓山を訪ねたという。するとまた"挨拶"も終わらぬうちにこう言った。「たいふ『小学』を学びましたね」。その人物はびっくりして何故分かるのかと訊ねると、眞の学びは面にあらわれ背にあふれると答えたと言う。章楓山は彼の体全体に「敬が怠に勝つ」気がみなぎっていることを感じたのである。ईの持ち様や気を 敬に向かわせるのか、急に向かわせるのかは、大七カであるということなのだと考えさせられる。眞に身に詰まる思いである。
院長、持